

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6 年次生 豊栴 美沙

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、2021 年 3 月 22 日～4 月 2 日までの 2 週間、イギリスの語学学校である EC English のオンライン留学プログラムを受講したので、ここに報告させていただきます。

2. EC English について

EC は、1991 年マルタ共和国で創設され、現在、マルタ以外にも、アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、南アフリカなど世界 30 か所にキャンパスを持つ語学学校です。今回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、Microsoft Teams を用いたオンラインでの留学に参加しました。

3. 授業について

1 日 2.25 時間、Pre-lesson (15 分) , Class lesson (90 分) , Post lesson (30 分) というように予習→授業→復習という流れでした。

—Pre lesson

その日の内容の予習（個人学習）

—Class lesson

電子の教科書に沿って授業が行われました。

内容としては、始めに先生からその日の授業についての説明があり、事前ワークの確認を少人数のグループに分かれて行います。その後、その日のレッスン目標に関する文法や単語、表現などの説明と学習や、習った英語を実践する会話タイムが設けられました。

—Post lesson

2 人ずつブレイクアウトルームに分けられ、課題を行います。その日のトピックを自分の経験に置き換えて文章を作成し、ロールプレイングを行うなどです。

クラスのメンバーは日々入れ替わりますが、先生 1 名、生徒 6～8 名で大半は日本人でした。4 名ほど外国の方がいらっしやって、コロンビア、セルビア、サウジアラビア、クウェートの出身の方でした。クラスは事前のレベルチェックテストによって細かく分けられていたため、英語力は皆同程度の方が集まっていました。

4. 2 週間のプログラムを終えて

今回のオンライン留学では、クラスのメンバーの大半は日本人でした。しかし、日本人が多いとはいえ、日本語で会話することは一度もなく、オンラインという距離感が生む緊

張感があったからこそできたことなのではないかと思います。これは現地留学に劣らない部分ではないかと感じました。しかし、オンラインならではの難しい部分もありました。授業中は何回か少人数のグループに分けられ、生徒同士で会話することがあったのですが、表情の変化やジェスチャーが見えにくい分、空気が硬くなってしまうことがありました。言葉に詰まってしまったり、あるいは相手の話すことが理解できなかったりなどです。

そして、海外の生徒が少なかったとはいえ、学ぶことは多々ありました。彼らとは英語の理解力（リスニングやリーディング）の面では大差ないように感じましたが、スピーキングの部分においては、流暢で自然な印象を受けました。「わからない」というような一つの表現に対しても、私ははじめ“I don’t know”といった表現しか使えませんでした。彼らは“I’m not sure”といったような、よりナチュラルな表現を自然に使っていて、とても勉強になりました。このように先生だけでなく、他の学生が話す英語を聞いて学ぶことも多かったです。また、授業の中では先生がこの単語はどういう意味かという問いを度々生徒に投げかけるのですが、これが非常に難しかったです。例えば「poor thing」というフレーズ。なんとなくは理解できるけど説明するとなると言葉が出てこない、といったことがよくあり、言い換える力や連想力といったものの重要性を痛感しました。単純なフレーズにおいても説明できるように、その都度考える、あるいは辞書を引く習慣を身に付けることができ、今後スピーキング力を向上させるに当たってどのように勉強すればよいかという方法を学ぶことができたと思います。

今回のプログラムでは毎回異なるトピックについて学習するのですが、中で「Nollywood（ナイジェリアの映画産業）」に関するトピックが印象的でした。アメリカのHollywoodやインドのBollywoodは耳にしたことがありましたが、Nollywoodについては初耳の内容だったので非常に興味深かったです。Nollywoodでは、ギャング映画やホラー映画が主流のようで、日本とはまるで違う点がおもしろかったです。また、クウェートの学生はインドに近いこともあり、インド映画には詳しく、おもしろいよとおすすめしてくれました。日々の授業の中でそういった話ができることもよかった点だと思います。このように今回のオンライン留学では、語学力の向上だけでなく、海外の文化に触れることができ、非常に充実した2週間を送ることができました。

私自身、もう少し英語力をアップして上のクラスに入ることができれば、深いディスカッションができ、より会話を楽しめるのではないかと思いました。今後も英語の勉強を続け、また今回のようなプログラムに挑戦したいです。

最後に、このような機会を与えてくださった国際交流基金助成事業に心より感謝申し上げます。